

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 210 号	2019年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 年頭の挨拶 (相談役 今井和男 記)

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、輝かしい新春を迎えられ心からお慶びを申し上げます。 昨年は会員皆様方のご協力によりまして会の諸活動は順調に推移しました。誠にありがとうございました。

本年は”平成“から次の年号の新しい時代が始まります。会も来年は20周年の節目を迎え、前準備の年となります。皆様方の更なるご協力をお願いする次第であります。

さて昨年の諸活動を振り返ってみますと

◎ 会報発刊 200 号の達成

編集責任者原谷事務局さん他編集委員の皆様の努力に感謝申し上げます。

◎ 維持活動の推進

エコアップ・草刈・修復活動等は順調にされましたが、参加者が固定化した現況で多数の参加者が望ましい感があります。

◎ 稲作体験の実施

親子自然観察隊・二俣瀬子ども会の皆様の稲作体験学習は大変良き経験であったとお聞きしました。これらによってつくられたもち米での収穫祭に於いては、市から市民環境部長・JA山口宇部からは厚東川支店次長・宇部環境コミュニティからは理事長の御臨席を得て盛大に行われました。誠に喜ばしい事でした。

今年は20周年のイベントに向かつての準備等で大変忙しい年となることと思いますが、会員皆様の一致団結のもと乗り切ることを願ひまして年頭の言葉といたします。

2. 活動報告 (事務局 記)

—1月19日(土) 今年最初の活動日で、会員11名が参加し、ため池内の除草と観察路に仮置きされていた除去草の処理の作業を実施しました。

3. 今後の予定 (事務局 記)

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—2月3日(日) 維持活動 エコアップ、修復作業

—2月16日(土) 維持活動 修復作業 椎茸体験作業菌打ち

4. 来訪者の声

今回はありません。

5. 会員の声 「1ケ年が1ケ月」 (原田満洲夫 記)

「新年は冥土への一里塚 目出度くもあり 目出度くもなし」とある俳人の詩である。

とみに齡75を過ぎて1年が経つのが非常に速い。1年というか1ケ月・1週間があつと云う間にすぎる。毎日・毎時が忙しいというのか、手が切れないというべきか？

平成12年に山口県の水環境創生事業の計画が発令され、いつの間にやら参加し、いつの間にやら活動し、早いものでもう19年経とうとしている。

立ち上げ当初の行政の指導的立場に居られた方々は、職場転籍や定年で去り、一人ひとり減り、また発起人の古い会員も体調を理由に去り、ご逝去でも会を去り、残された当時の若い衆も既に後期高齢者となって、ビオトープの維持管理だけが重くのしかかって来ている。

創設当初は、3回/月 50人/回 の活動も賑わしていたがつくる会から維持管理の形になって前述のように会員数も減じ、現状の実動参加が平均12~3人となっている。

それでも何とか持ちこたえ、あつという間に過ぎ来年は20周年を迎えようとしている。

気は早る 日にちと時間は あつと過ぎ

6. 会よりの連絡事項

1、新入会員のお知らせ

かねてよりビオトープの活動に参加頂いていました藤井さんのご紹介をいたします

・お名前 藤井佑治 ・住所 二俣瀬辻堂在住 元高校校長・二俣瀬コミュニティ会長
連絡先方法等は総会時に配布いたします。

2、2月の16日の活動日には椎茸のホダ木に「駒打ち」をおこないます。電源がない為原田宅にて行い、同場所にて養生も行います。

7. 編集後記 (松本 フデ子 記)

平成最後の年の始まり。今年も変わりなく現状維持が出来ればと思う。ビオトープ二俣瀬の環境もビオトープであり続ける為に頑張って作業を続けているが追いつけない状況が続いている。これ以上落ち込まない為にも今余り顔の見えない会員の方、月に一度でもビオトープ作業参加を優先して欲しい。又作業は無理でも来られる状況にあれば、目と耳と口だけ参加してください、顔だけでも見せて下さい、待ってます。新会員になって下さる方も大歓迎です。